

コロナ・五輪政局の見通し

「インサイドライン」編集長 歳川隆雄

- * 全人代の開催が遅れた背景
- * 改革推進選択の可能性
- * トランプの経済対策は選挙に照準
- * 注目のホイットマー知事
- * 側近グループの正体
- * 不評のマスク配布はどう決まったのか
- * 危機管理の中心に変化
- * ポスト安倍の実力はいかに
- * 最後の内閣改造
- * 米国民党も中国に厳しい



柴生田 それでは開会いたします。

本日は、すっかりおなじみでございますので改めて紹介の必要もないかと思いますが、インサイドライン編集長の歳川さんにおいていただきました。毎年1回、政局、政治の動向につきましてお話をいただいております。今年はコロナ騒ぎの中でございますが、政治の世界、また役人の世界について、いろいろ伺いたいことがたくさんございますので、ぜひ今日はその内幕をじっくりお話しいただきたいと思っております。

それでは、よろしくお願いたします。

歳川 こんにちは、歳川隆雄です。私が皆様にお話ししたいことは、現在の安倍政権が立ち向かっているコロナウイルス対策について、世上では大変な不評を買っているわけですが、

これはいったい那辺なところに理由があるのかということが一つです。そして新型コロナに立ち向かっている安倍晋三総理が、この対応いかんによっては今後の政権運営、あるいは自ら胸中に秘めている安倍後継の選出などについても大きな影響を与えるわけで、そのようなことを前提でお話をしたいと考えています。

私がまず指摘したいのは、これから先行きを見通す上で重要なファクターがあるということです。すなわち、それは米中ファクターとあえて私は申し上げますが、アメリカと中国の現状が今後の日本の先行き、あるいは安倍政権の先行きに大きな影響を与えるということを言いたいわけです。